

2009年11月6日

大阪損保革新懇 2010年度・第12回総会アピール

新しい歴史の幕開く

もっと会員を迎え 状況を変えよう！

私たちは今日の総会から結成12年目の活動に入ります。

今年8月の総選挙で、国民は自公政権に歴史的な厳しい審判を与えました。国民が主権を発動して、日本の歴史上初めて保守政権を退陣させたことは大きな前進です。 私たちも「世界史が変わり始めている時代」「いまたたかえば政治が動く、国民の声で政治が変わる」「革新三目標がよいよ真価を発揮する時代」を合言葉に自公政権を早く終わらせようとよびかけ、奮闘してきました。とうとう新しい歴史の幕が開きましたが、これからは『国民が主人公』の新しい日本の路線をどうつくっていくかが問われます。

9月に民主党を中心とする連立政権が誕生しました。この間、新政権は官僚主導から政治主導への転換、補正予算の見直し、温室ガス25パーセントの削減、「核」密約の究明、公共事業の見直しなど次々と自公路線からの脱却と自らの『マニフェスト』路線を実践する姿勢を示しています。これらは総選挙で示された国民の強い要求に応えはじめているかのように、また私たちには革新三目標実現の方向と重なっているかのような期待感を与えています。同時に、鳩山首相は所信表明演説の中で「戦後行政の大掃除に取り組む」と述べたものの、財界中心とアメリカとの同盟中心についてどうするのか、沖縄基地撤去・財源確保・景気浮揚・雇用改善など国民の切実な要求実現にはまだ不安な部分を残しています。来年の参議院選挙の結果によっては一気にハトがタカに転じる可能性もあります。

私たちは革新三目標と損保産業の民主的な発展をのぞむ立場からの視点を確認しておく必要があります。

すなわち、革新目標の『経済の仕組みを国民本位に変える』点では、年金・雇用・医療・福祉・教育・子育てなどを改善・充実する。財源は消費税増税ではなく、軍事費を削減し、行政のムダ遣いを改革し、大企業と資産家に応分の負担を求める。『憲法と民主主義を守り平和をめざす』では、核兵器廃絶、平和憲法と9条を守り、人権を大切にする。民意が反映する選挙制度を守る。自衛隊の海外派兵を中止し、米国との従属的關係をやめる。『金融・保険の民主化』では、小泉・竹中路線のもとで進められた新自由主義・市場原理主義の金融政策の功罪を総括し、現在進められている儲け本位の統合・合併、過当競争をやめ、「年次改革要望書」などによるアメリカの経済的介入をやめさせる。これらの基本的な視点を堅持する必要があります。

損保産業では1996年の日米保険協議の結果、大型再編・合併が続き、大手会社主導の競争が激しく繰り返されてきました。各社は収保拡大・利益追求・代理店制度破壊・従業員削減・労働条件改悪・雇用制度流動化などあらゆる面での「効率化・合理化」を追求してきました。来年4月にはさらに大型統合が具体化し、統合後大手3社でマーケットシェアが90%を超える超寡占

化産業になろうとしています。米国発の金融保険の危機・崩壊が明らかになり、メガ損保をひたすらめざすというビジネスモデルは通用しない時代にもかかわらず、三井住友・あいおい・ニッセイ同和の新ホールディング会社は「世界トップ水準の保険・金融グループの実現」を基本目標に掲げています。

このような統合が進めば、ますます効率化・合理化が追求され、契約者・代理店・従業員へのしわ寄せが強まることも容易に予測されます。

今日、損保産業に問われ、求められていることは、メガ損保3社で規模と利益の追求を求め、競争のバーを上げることではなく、国民生活に軸足を置いた産業への転換の方向です。契約者へのサービスを一層提供し、損害保険に働く従業員と代理店を大切にして、国民生活の安心と安全に役立つネットワーク産業として役割を発揮する方向です。

私たちは結成以来、損保産業の三つの座標軸を確認して、活動を重ねてきました。

- ① 損保は「平和産業」である。
- ② 損保は国民生活に密着した「セーフティネット産業」である。
- ③ 損保は「生きがい・働きがい産業」である。

私たちは結成10年目のこの1年も様々な取り組みを進めてきました。

今年1月には『大阪損保革新懇ニュース』100号を発行し、いままでの活動を支えていただいた多くの方からメッセージをいただき、仲間へ新たな決意を訴えました。08年4月と09年4月にはシンポジウム『損保産業の社会的役割を考える』を開催、保険契約者と最も接点の多い損害保険の代理店問題と共済問題を取り上げ、シンポジウム講演録の配布活動を通じて内外に問題提起をおこないました。毎回の世話人会議には30名を超える仲間が参加しています。本年度開催した4回の学習会にはのべ300名近い仲間が参加しました。世話人会や学習会の後に女性会員の手作り料理での交流も定着しています。毎年総会後の二次会では100名近い仲間が参加し、交流しています。

現在、8つ会社の職場の322名の仲間が会員として活動に参加しています。現役の会員は新入社員から管理職まで、OBも多様な経験者を擁しています。この1年に現役社員や代理店など30数名の新しい仲間を迎えるという組織的な特徴を作り出しています。この要因は、もちろん仲間たちが近くの人に声をかけるという基本的な取り組みが第一にあります。同時に三つの座標軸が現在の政治・経済情勢と損保産業の情勢と職場の仲間の気持ちや要求とマッチして、多くの仲間の共感・賛同を得ているからだと考えています。

この11年間に積み重ねてきたさまざまな活動に確信を共有したいと思います。

日本の新しい歴史が始まる時、私たちは12年目の活動に入ります。私たちの存在と活動や提言を多くの仲間が賛同してくれていますが、損保の職場や労働者・代理店・共済の仲間のおかれている状況を考えるとき、もつと会員を増やし、質量にわたる活動の強化と充実が問われています。会員はまだ300人台です。あなたの周りのもう一人の仲間へ声をかけてください。もっともつと新しい会員を迎えましょう。

先般『代理店問題プロジェクト』が発足しました。東海日動のたたかい、高田橋さんのたたかいも引き続き取り組んでいます。

みなさん、ともにがんばりましょう。